

最短修業年限超過者等に係る事由書

(別途、[様式10-2] 教員所見も添付すること)

様式

10

- 注1. 前期は4月1日、後期は10月1日現在の状況で記入すること。
- 注2. 本事由書作成の前に裏面を必ず読んでください。
- 注3. 特に慎重な審査を要する場合は、追加資料等を求めることがあります。

年 月 日

学部・研究科名	課程	学科・専攻名	入(進)学年	学年	学生番号	
学部	学部		西暦			
研究科	修士		年 月		氏名	
学舎	博士					
教育部	専門職					

1. 病気の場合

※ 修業年限を超えた理由が病気による場合は、医師の診断書等(病気期間の記載があるもの)を添付してください。

病名

期間 西暦 年 月 日 ~ 西暦 年 月 日

休学期間 西暦 年 月 日 ~ 西暦 年 月 日

(病状について)

2. 留学の場合

留学先(国名) _____

大学名(機関名) _____

留学期間 西暦 年 月 日 ~ 西暦 年 月 日
 休学期間 西暦 年 月 日 ~ 西暦 年 月 日

留学種別 (該当する番号を○で囲んでください)

- ① 国費(日本政府奨学金 ※日本学生支援機構含む)
- ② 公共団体等からの助成
団体名 _____
- ③ 大学の交換プログラム等
- ④ 私費

3. 大学院の博士學位論文作成の場合

※ 修業年限超過の期間が1年を超える場合は免除の対象としません。

《研究題目》

(進捗状況の概略)

4. その他の場合

(4-1~4-3まで記入必須)

4-1. 以下、該当する箇所にチェックしてください。(理由が記入しきれない場合は、別紙を添付してください。)

- (1) 出産・育児・介護
- (2) 国等の要請に応じて休学し、公益事業(青年海外協力隊、兵役等)に参加 ※1)
- (3) 学資獲得のためのアルバイト苦による場合(留学生を除く) ※2)
- (4) 申請者本人が障害者であるため学業・研究において修業年限以上の期間を要すると認められる場合
- (5) 新型コロナウイルス感染症の影響を受けたと認められる場合 ※3)

- ※1) インターシップの場合は、①機関②期間③研究との関連④業務内容等も含めて必ず記入してください。
- ※2) アルバイト(留学生を除く)の場合は、①経済的必要性②アルバイト状況(いつから週○時間勤務等)も含めて必ず記入してください。(根拠書類を求める場合があります。また、学内のTA/RA/OAはその根拠となる総労働時間数がわかる予定表等を提出すること)
- ※3) (免除の対象とならない事例)・就職活動を満足に行うことができなかったに伴う就職待機 等
(免除の対象となりうる事例)・研究に必要な海外でのフィールドワークを予定していたが、新型コロナウイルスの影響により渡航することができなかった・入国制限により日本に入国することができなかったため、休学した 等

4-2. 時系列・理由を記入してください

年度 (4月~3月)	在籍 年数	最短超過にかかわる理由 (例: 兵役・育児等) ※それ以外は在学と記入	具体的理由
年度	1年目	前期(4月~) 後期(10月~)	
年度	2年目		
年度	3年目		
年度	4年目		
年度	5年目		

4-3. 休学期間を記入してください 西暦 年 月 日 ~ 西暦 年 月 日

最短修業年限超過者等に係る事由書

指導教員の方へ

- ・申請者記入の〔様式10-1〕最短修業年限超過者等に係る事由書を確認の上、以下の1～3をご記入ください。ご記入後、封筒（任意の形式）に入れて糊付けの上、申請者本人に渡してください。

本人記入欄						
学部・研究科名	課程	学科・専攻名	入(進)学年	学年	学生番号	
学部 研究科 学舎 教育部	学部 修士 博士 専門職		西暦 年 月		氏名	

教員記入欄	
1. 上記申請者の最短修業年限超過事由等に対する指導教員等の所見	
<p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>	
2. 今年度卒業・修了の見込み	有り ・ 無し
<p>(以下の3. 記入日・教員署名等もご記入ください。また、所見欄では不足する場合は、以下の余白にもご記入ください。)</p>	
3. 記入日・教員署名等	
西暦 年 月 日	(指導教員) 職名・氏名 _____